

7年前に戻れたら

恵庭市医師会
本田記念病院

池本 真美

15年ほど前のことである、野戦病院のような市立病院で仕事をしていた。多くの医局研究室でみられるように、並んだ机の中で境界は互いの積み重なった本や文献の山の微妙なバランスで成り立っていた。ある時隣の先輩の文献の山から2～3部の第3種郵便が落ち、良き隣人として拾ったのだが…。先輩「これは何だ？ 7年前の郵便だ！」とのこと。私「さて？」（そんな古い物を捨てていなかったのですか…）。「ここに（この文献の山に）7年前に通じる道があるかもしれない！ そうだ、もし7年前に戻れたらどうする？」と先輩。私の7年前はちょうど母が亡くなった時で、その後は父との介護生活に突入、そのタイムトンネル事件の数ヵ月前に父も逝ってしまっていた。じっくり考えた私「戻りたくないです」。父の介護でもっと良いやり方があったらどうか？ もっとより良い仕事や生活の仕方があったらどうか？ それにも増して家族を失う寂しさを繰り返すのは？

映画やテレビドラマではなく、平凡な日々の生活は、その時その時精一杯考え決めたことで成り立っている。たとえ7年前に戻っても同じ決断をし、同じ行動にたどり着くのではないかと考え始めた。その後さまざまな職種の同僚に「7年前に戻れたら？」を聞くことにしてみた。時に「7年じゃ短い～」という黄色い声の反対もあったが…。大半の人たちが「戻らなくて良い」という結論だった。「あの時こうしていれば、ああしていれば」は時間の流れの中で大体は平均化され、吸収されていく。

外来にみえる患者様の中で「少し前までできたことができなくなった。元に戻りたい」と嘆く中高年の方をみかける。その「少し前」はいつなのか？「それは7年前にはできました？」「できた」と更に7年を何回か掛けると、大体30代中頃か更には20代が理想の自分であることを発見する。そして私は長頃のように「20の自分には戻れない」ことを話し合い、現在の体力や気力の「自分」を発見していただくことにしている。7年は私にとって絶妙な時間である。

さて、その後の大震災を含むいくつかの天災や、今回のCOVID-19のような災難を過ごす中で「やはり7年前には戻りたくない」と今も考えるだろうか？

これまででたった一人「戻りたくない」と言わなかったある同僚がいた。

「7年前に戻れたら、今の夫とは…」

私は以来その質問をすることをやめた。

子育てあれこれ

札幌市医師会
小坂病院

小坂 昌宏

現在、我が家には3人の息子がおります。

ようやく今年、一番下の子が4歳になり、バタバタしていた生活が少しばかり落ち着いてきたところです。

10年ばかり育児する中で、子供の柔軟な発想に驚かされることも多く、今回は、その中から思い出深いエピソードを何個か紹介させていただきます。

子供の心の中での定山溪〇ユーホテルに抱くイメージのハードルが高すぎて、ニュースなどでホワイトハウスや国会議事堂の映像がテレビに映るたびに「これが〇山溪ビューホテル？」と毎回聞かれておりました。いつか連れて行ってあげなければ、と思いながら、結局まだ行ってません。

また、「学校の図書館ですごい伝記をみつけてしまった、北島三郎って知ってる？」と息を切らせて走って帰ってきたこともありました。演歌でも習い始めるのか、とびくびくしながら、北海道出身者であること、紅白歌合戦の常連であることなど、自分なりに丁寧に紹介したところ、「そんな人じゃないよ！病気やワクチンの研究とかすごい発見した人だよ！お父さん、医者なのに知らないの？」と逆切れされました。息子よ、それは北島三郎さんの伝記ではないよ。北里柴三郎先生の伝記だよ。

スーパーで突然ぐずりだし、寝転がって動かなくなってしまったので、「好きなお菓子2つ持ってきていいよ」と心の大きなところを見せたところ、突然走り出し、精肉コーナーから豚バラ肉を2パック持って帰ってきました。予想のはるかに上に行く結果に愕然としました。豚バラ肉は、遠足に持っていくお菓子に含んでいいのか、いまだに解決していません。また、スーパーにある全てのマネキンと握手するまで帰らない、という斬新なぐずり方も経験しました。

そういえば、乳児のころ、寝転んでかりんとうを食べていると思ったら、単に便を食べていただけだった、という姿も忘れられません。

まだまだ笑わせてもらえそうな3人組です。